

令和元年度美術刀剣製作技術保存研修会 作刀技術実地研修会 実施される

去る令和元年9月25日から28日までの4日間にわたって、島根県仁多郡奥出雲町大字大呂にある本協会施設の「日刀保日本刀鍛錬道場」において、

金屋子神社境内からの会場



標記研修会が実施されました。この研修会は、若手刀匠を中心とした作刀技術の向上を図ることを目的として、昭和58年より開設され、今年で

開講式 奥原徹副町長



37回目となります。本研修会は1年目を「鍛錬」、2年目を「素延・火造」そして最後の3年目に「焼入れ」を行い、3カ年をもって修了とするカリキ

開講式 永島修司工場長



ユラムを組み、この三工程を全ておえると、研修修了となります。

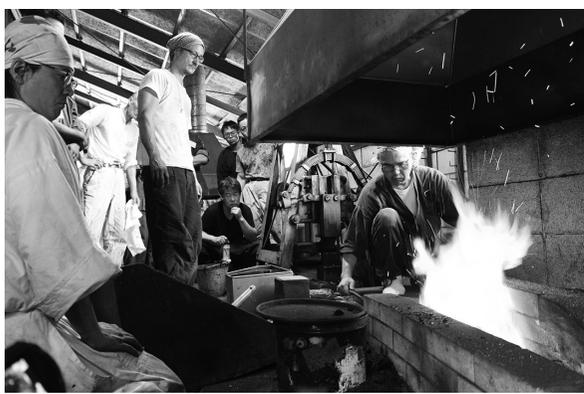
本年の研修は、第14期の1年目にあたり、「鍛錬」をテーマとしました。またそれと同時に、近年のサブテーマである「各種玉鋼の効果的使用法」の研修も行いました。

本年度の講師及び研修生は次の通りです（講師以外は五十音順、氏名の括弧内は刀匠名）。

講師 久保善博（善博）

高見一良（國一）

久保善博講師





実習風景



実習風景

高見國一講師



鍛錬風景



たたら操業準備



聴講生

研修生

鳥根 古山直樹（照人）
山口 湯川夜叉
（鏡夜又磨）
静岡 内田善基（義基）
神奈川 栗谷文治
兵庫 坂口雅堯
宮崎 杉谷斉昭
宮崎 富岡慶一郎（慶正）
奈良 藤村恵當（寿恵）
千葉 森本成美
広島 松田周平

ジョン・ロイトヴィラー

研修の初日は9時より開講式が行われ、奥出雲町奥原徹副町長、(株)日立金属安来製作所総務部長・鳥上木炭銃工場永島修司工場長、選定保存技術保持者の木原明氏ら出席のもと、開催されました。

近年の刀剣ブームの反映なのかは定かではありませんが、本年は外国人の刀匠や刀匠修業中の受講生が二名参加し、刀剣の「国際化」が顕著となっております。

こういった受講生の参加に触発され、他の受講生も大変熱心に研修に取りかかっています。

り組んでいました。

日刀保たたら現場では、来年のたたら操業準備に余念がありません。

日刀保たたらに隣接した鍛錬道場で、毎年この時期に研修会が行われていることから、たたらに関する解説時間も設けました。解説は三浦上級養成員にお願ひし、炭焼の期間やその際の方法などのお話がありました。

実際、いわゆるたたら製鉄として認識されるような、年に3週間行われる砂鉄・木炭を炉に装入して鉄を作る過程は、「狭い意味でのたたら操業」です。

炭切り



しかし、この3週間のハイライトに向けて、ほぼ通年の準備期間があります。それがまさに「広い意味でのたたら操業」です。

この広い意味でのたたら操業では、炭焼や砂鉄採取などあらゆることをして、冬の本操業に備えなければなりません。この準備があつてこそたたら操業となることを研修生は実感したようです。刀剣の原点は「たたら」である、そのことを現場で実感できたことでしょう。

玉鋼選別実習

本年の研修会は、講師と研修生の距



離感が例年以上に近く、非常に良い意味での家族的雰囲気なかで進めることが出来ました。

本研修会もまもなく40周年を迎えます。講師もこの研修会修了者がその席を占めることとなり、研修会出身者にとつても大きな励みとなっています。

ここ数年、定着した少数精鋭のこの場で多くを学び、様々な知識を得、確実な技術向上を果たしている受講生も多々見られます。今後も同様な方針の下、短期集中のなかで研鑽を積む研修会を維持していかねばなりません。

閉講式 木原明村下



閉講式 久保講師



最終日には、閉講式に先立ち、毎年恒例の玉鋼選別実習も行われました。受講生は、玉鋼を作る現場とその職人の話を聞き、刀工としての責任を実感する場となったようです。

閉講式では、木原明氏の挨拶と久保講師の講評をいただき、そして受講生全員に、高見講師から修了証書が手交されました。

来年の再会と今後の飛躍を祈念して、金屋子神に参拝し、解散となりました。

(たたら・伝統文化推進課長 黒滝哲哉)